

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

秋冷の候、皆様方には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は学校教育にご理解・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本年度実施しました全国学力・学習状況調査の結果を分析いたしましたところ、本校では以下のような傾向が見られましたのでお知らせいたします。

1. 結果の概要

【国語】

正答率の高低傾向が全国平均の様相と似通っていました。昨年に続いて、「読むこと」の内容に課題が見られました。これは、日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる問題や、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題で顕著に表れていました。また、今年度も後半の問題で無回答率が上がる傾向があり、読解や考えを整理し表現する力が影響していることが考えられます。

【算数】

正答率の高低傾向が全国平均の様相と似通っていました。本校では、平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる問題（短答式）や、はかりの目盛りを読むことができるかどうかを見る問題（短答式）において正答率が高くなっていました。一方、図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題（記述式）や、二つの数量の関係に着目し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題（記述式）では、正答率が低くなっていました。このことから、基本的な知識は身に付いているが、知識をもとに考えを整理し表現する力に課題があることが考えられます。

【理科】

正答率の高低傾向が全国平均の様相と似通っていました。本校では、植物の種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決方法を発想し、表現することができるかどうかを見る問題（選択式）や、植物の発芽の結果から、示された条件を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる問題（記述式）において正答率が高くなっていました。一方、電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかを見る問題（短答式）や、乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる問題（選択式）では、正答率が低くなっていました。このことから、「生命」に関する内容を得意とし、「エネルギー」に関する内容を苦手とする傾向があることが考えられます。

2. 児童質問紙から見えること

質問の内容は、「基本的生活習慣」「挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感」「学習習慣、学習環境」「地域や社会に関わる活動の状況」「ICTを活用した学習状況」「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業に対する取組状況」「総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳」、学習に対する興味関心や授業の理解度「国語」「算数」「理科」「英語」の11観点71項目と、学力調査に関する解答状況について問う6項目でした。

「早寝、早起き、朝ごはん」に例えられる基本的生活の習慣化が高い傾向にあります。先生によさを認めてもらっていると実感し、人の役に立つ人間になりたい、いじめは絶対に認められないと考えるなど学校生活（学習、先生、友達関係等）への期待が大きい傾向が表れていました。一方で、「学校に行くのは楽しいと思いますか」という問いに対して消極的な回答を示す児童が年々微増しています。

市では『家庭学習の手引き』の中で、高学年の家庭学習時間の目安として「60～90分」を示しています。回答によると、半数程度の児童が目安時間の学習を行っています。日々の宿題は、30分程度の内容ですので、自主勉強に取り組んでいる児童がいますと考えられます。

新聞を読んだり読書をしたりする時間は、全国、県の結果と同様で減少傾向にあります。

地域行事への参加や社会貢献の大切さを意識しながらも、実行できていないという回答が昨年より微増しています。

3. 結果を受けて

○課題から

各教科において、無解答が一定数あることを課題ととらえています。無解答には傾向があり、国語では、昨年と同様に後半の問題で無解答が増加していました。解答に時間がかかったことが理由の一つと考えられます。また、3教科に共通して、記述式解答の問題で無解答が増加していました。これには、長文読解力と作文力の課題が関連していると考えます。低学年のころから、最後まで考え取り組む習慣を育てることが必要だと話し合いました。また、学校生活の中で読書の時間を確保していきます。発達段階に応じた内容の図書を学年の廊下や教室に置き、課題後や給食の待ち時間などに手に取りやすい環境を用意し、読書を推奨していきます。（今年度から、通年の取組みとして市立図書館から学年文庫用に借り受けています。）

また、質問紙調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」という問いに対する消極的な回答が微増傾向にあることも重要なサインとしてとらえました。友達のよさに気づき、自分のよさを見つめなおす「キラキラの木」の取組みのように、自信を深めることができる活動を考えていきます。学級担任だけでなく、専科をはじめとする担任以外の教師も積極的に声をかけ、児童一人一人との関係を育みます。消極的な心情には、勉強のつまずきも原因の一つと考えます。意欲を引き出し、わかいやすい授業づくりに取り組みます。

○引き続き取り組むこと

本校は、学校教育目標に「こころ豊かに、自らの力で未来を切り拓く子の育成」を掲げ、教育活動を進めています。また、研究主題を『表現することを通して学びを深める子どもの育成～「学び合い」で考えを深め、「わかる学力」を育む授業づくり～』として、「協同的探究学習」の理念に基づく授業改善に取り組んでいます。

授業では、考えを記述し、根拠や理由を説明する活動を積極的に取り入れると共に、進んで自分の考えをもち、友達の意見に興味・関心を向けながら、さらに自分の考えを深めようとする態度と「わかる学力」の向上に取り組んでいるところです。また、ICTを生かした学習活動も進めています。一人一人課題は異なりますが、各学年の実態に応じて「何をどのように読み、書くのか」意識して取り組むことができる授業づくりに一層努めます。また、「できる学力」の定着についても、各

学年の実態や課題を見極めつつ、ICT を適切に活用することを含め、工夫して取り組んでまいります。

子どもたちの学力の向上には、健康・体調管理の面、家庭における基本的な生活習慣や学習習慣の確立等、学校だけでは力の及ばないこともあります。学校と家庭が連携し、子どもたちの学力向上と健全な育成を図っていきますよう、引き続きご家庭でも、本に触れたり、ICT を適切に活用して学習に取り組んだりする時間をもつなど、「学びに向かう姿勢」を育てていただけるとありがたいです。

今後とも、ご協力をよろしくお願いいたします。